

経済同友 12,1

December 2012 ~ January 2013
No.752

Contents

■2013年 代表幹事年頭見解
経済の成長なくして日本の再生なし 02

■特集
経済三団体 新年祝賀パーティー
合同記者会見 04

■Doyukai Report 09

第38回 日本・ASEAN経営者会議
グローバルな諸課題と日本・ASEANの対応

ロシア・欧州ミッション報告書概要 11
近隣国から見たロシアとプーチン新体制下の变化

第4回 会員懇談会 13

「米国大統領選挙後のアジア政策と日米関係」

藤崎 一郎 氏 前アメリカ合衆国駐劄特命全権大使

被災地出張授業 15

「これからの国際社会に生きる君たちへ

一生がいのある人生を送るために」

北城 悟太郎 元代表幹事 日本アイ・ビー・エム 相談役

福井県原子力発電所所在市町協議会との懇談会 17

「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果 18

■Seminar 19

第1202回 会員セミナー 19

「変身:将来を無視して暮らしてきた世界経済の展望」

ロバート・フェルドマン 氏

モルガン・スタンレー・M&F証券 チーフエコノミスト

第1203回 会員セミナー 20

「世界貿易の縮小と構造調整

一量金融緩和政策は失敗」

中前 忠 氏 中前国際経済研究所 代表

第1204回 会員セミナー 21

「『十八大』後の中国はどこへ向かうのか?」

肖 敏捷 氏 エコノミスト

■Column 01

巻頭言 小林 栄三

「挑戦する人を育てる」

リレートーク 村本 豊彦 22

「ゴスペル・ナイト」

Global View 多田 幸雄 23

「北極海から見る世界地図」

TOKYO2020 夢の力 成田 真由美 氏 24

「2020年、東京でかなえたい大きな夢」

私の思い出写真館 池田 弘一 26

「オクトーバーフェストの思い出」

2013年度 正副代表幹事 08

推薦候補者の内定について

新入会員紹介 25

寄附金のお願ひ 17

「世界経済社会会議 (WEHC)、アジア初の京都開催決まる」

今月の表紙:世界の文様シリーズ

【アメリカ・アーリー・アメリカンのキルト模様】

アーリー・アメリカンとは17~19世紀のアメリカ開拓時代の様式のこと。日本人でもどこか懐かしさを覚えるデザインです。

巻頭言

副代表幹事
アジア委員会 委員長

小林 栄三

伊藤忠商事
取締役会長



「挑戦する人を育てる」

わが国が官民を挙げて取り組まなければならない課題の一つに、グローバル人材の育成があり、各方面で語学研修生や留学生の派遣、あるいは受け入れに取り組んでいます。一朝一夕にこの問題は解決しません。語学ができるに越したことはありませんが、単に語学能力だけでグローバル人材とはいえないのも明らかです。肝心なのは、日本全体として「内向き」から「外向き」に意識を切り替えるとともに、人種、国籍、性別、宗教などの違いを受け入れ、グローバルな視野と感覚で物事に対処できる人材を育成することです。こうした人材が育てば、逆に日本の良さを世界にアピールすることもでき、結果として経済的にも文化的にも魅力的で国際競争力のある国になると確信します。

一方、少子化や高齢化というどうしても避けられない現実を直視すれば、中・長期的にわが国の産業構造を、より付加価値の高いものに大きく変革していくということが重要です。人間は、ともすれば現状に甘んじ、問題を認めず、矮小化^{わいしょう}し、先送りし、ついには降参するという、悲惨な四幕劇を演じがちですが、そうした愚に陥らないこと、すなわち課題や問題点を直視し、変革に勇気を持って取り組む必要があります。

製造業はもとより、サービス業においても、こうした付加価値を高めるための変革を支えるのは人です。戦国の猛将武田信玄の戦略を記した甲陽軍鑑には、「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり^(注1)」という一節がありますが、今日の経営者もまた、変革に果敢に挑戦する創造的な人材を育てるということに、腐心しなくてはなりません。

広い視野で豊かな発想をし、それを実現するための行動力を潜在的に備えた人材は、わが国に決して少ないわけではありません。経営者は、社員の果敢な挑戦のチャンスを数多くつくとともに、失敗を許容し、再挑戦を可能にするような企業風土や環境を醸成することが必要です。また、自らが多くの社員に直接接し、話を聞き、語り掛ける機会を持って、啐啄同時^{そったくどうじ}^(注2)となるよう努めなくてはなりません。サントリーを創業された鳥居信治郎氏は、ことあるごとに「なんでもやってみなはれ、やらな分からしまへんで」とおっしゃったそうですが、優しい言い回しの中に、キラリと光る経営哲学があるように思います。

(注1) 堅牢な城を築くよりも、人材を育成し、適材適所に配置して、強い集団をつくることが重要である。また、相手を信頼し、大切に活用すれば、彼らの士気・忠誠心を高めるが、逆に相手を恨めば必ず反発にあらうといった意味。

(注2) 禅僧の教育心得として伝えられる教訓の一つ。啐(生まれ出ようとするひな鳥が内側から卵をつつく)と啄(ひな鳥の様子を察した親鳥が外側から卵をつつき、誕生を助ける)の呼吸、タイミングの重要性を説いた言葉。悟りを開こうとする修行者の様子を見逃さず、絶妙のタイミングで働き掛けてこそ指導は生きることと言いつけている。